



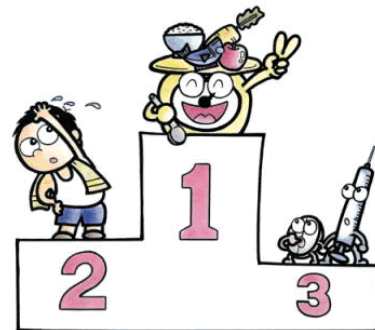
糖尿病教室「薬物療法」

1. 薬物療法とは

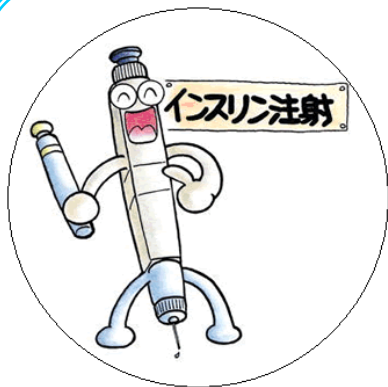
・糖尿病の治療には、**食事療法**、**運動療法**、**薬物療法**の3つがあります。

食事療法、運動療法を行っても血糖値が安定しないときに薬物療法を行います。

・**血糖をコントロールし、合併症の発症を防いだり、進行を遅らせることが目的です。**



2. 薬物療法にはどのようなものがあるのか



《**インスリン注射**》は、インスリンを補うことにより、インスリン本来の働きを再現しようとするものです。疲れたすい臓を休ませてあげることでもあります。

血糖値やその変動、
生活スタイルに合った
治療法が選ばれます。

《**のみぐすり**》は、インスリン本来の働きを補うために使用されます。何種類か組み合わせて使用されることもあります。



1) 飲み薬について

インスリンの
効きをよくする

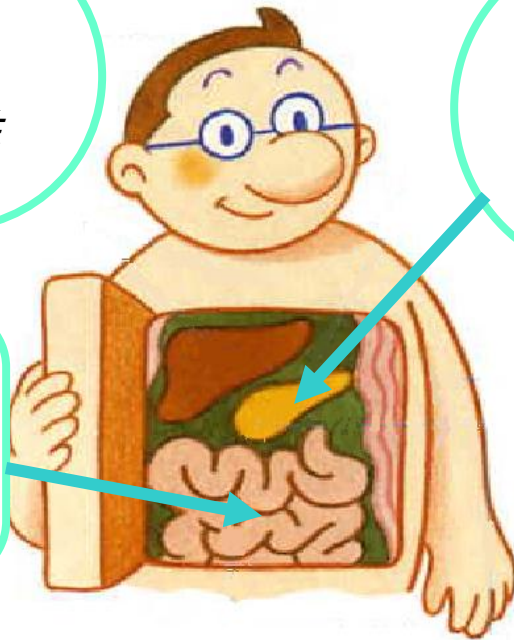
- ・ビグアナイド剤
- ・インスリン抵抗性
改善剤

インスリンの出を
良くする

- ・SU剤
- ・速効型インスリン
分泌促進剤

食べ物の分解を
遅らせる

- ・ α -グルコシダーゼ
阻害剤



しびれを改善する

- ・糖尿病性
末梢神経障害
改善剤

SU剤

アマリール
(1mg)



【薬効】

- ・すい臓に働きかけてインスリンの
分泌を促進します。
- ・アマリールにはインスリン抵抗性
改善剤と同じ作用もあります。

オイグルコン
(1.25mg)



グリミクロンHA
(20mg)



【副作用・注意点】

- ・低血糖を起こすことがあるの
で注意してください。

速効型インスリン 分泌促進剤

ファスティック
(30mg)



ファスティック
(90mg)



【薬効】

・すい臓に働きかけてインスリンの分泌を促進します。作用が速く現れ、速く消え、食後の急激な血糖上昇を抑えます。

グルファスト
(10mg)



【副作用・注意点】

- ・低血糖を起こすことがあるので注意してください
- ・必ず食直前に服用してください。

α-グルコシターゼ 阻害剤

グルコバイ
(50mg)



グルコバイ
(100mg)



【薬効】

- ・小腸で糖質がブドウ糖に分解されるのを抑えて糖質の消化・吸収を遅らせます。
- ・食後の急激な血糖上昇を抑えます。

ベイスン
(0.2mg)



ベイスン
(0.3mg)



セイブル
(50mg)



【副作用・注意点】

- ・必ず食直前に服用してください。
- ・低血糖のときはブドウ糖を服用してください。
- ・お腹が張ったり、おならの回数が増えることがあります。

ヒグアナイド剤【薬効】

メトグルコ
(250mg)



・肝臓、筋肉、脂肪などすい臓以外の組織に作用して、糖の利用を増やしたり、糖の新生を抑えたりして血糖を下げます。

【副作用・注意点】

- ・低血糖を起こすことがあるので注意してください。
- ・吐き気、腹痛、下痢、倦怠感、筋肉痛などが現れたら直ちに主治医に相談してください。

インスリン抵抗性 改善剤

アクトス
(15mg)



【薬効】

- ・筋肉などでインスリンの効きを良くし、糖分の取り込みを促進します。
- ・分泌されたインスリンが上手く働いていない人に使われます。

【副作用・注意点】

- ・低血糖を起こすことがあるので注意してください。
- ・発熱、吐き気、倦怠感、皮膚や白目が黄色くなる、むくみ、息切れ、体重増加などが現れたら直ちに主治医に相談してください。

糖尿病性 末梢神経障害 改善剤

キネダック
(50mg)



リリカ
(25mg)



リリカ
(75mg)



【薬効】

- ・糖尿病性末梢神経障害による手足のしびれ、痛みを改善します。

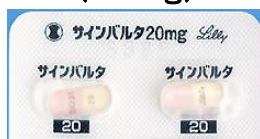
【副作用・注意点】

- ・キネダックでは尿が黄褐色から赤色となることがあります。
- ・リリカでは眠気やめまいが現れることがあります。

メキシチール
(100mg)



サインバルタ
(20mg)



DPP-4阻害剤

ジャヌビア
(50mg)



エクア
(50mg)



【薬効】

・血糖値に応じてインスリンの分泌を促進し、血糖コントロールを改善します。

トラゼンタ
(5mg)



【副作用・注意点】

・低血糖を起こすことがあるので注意してください。

GLP-1作動薬 (注射薬)



ビクトーザ皮下注
(18mg)

【薬効】

・血糖値が高いときにインスリンの分泌を促進し、血糖コントロールを改善します。



バイエッタ皮下注
(5µg)

【副作用・注意点】

・指示された量を守り、指示された時刻に注射してください。
・低血糖を起こすことがあるので注意してください。



バイエッタ皮下注
(10µg)



















2)インスリン注射について

・インスリンは膵臓から出されるホルモンで、血液中のブドウ糖を全身の細胞が利用できるようにしたり、脂肪や筋肉に蓄えさせたりして血糖値をコントロールしています。

・インスリンの分泌が不足している場合、インスリンの注射をして体外から不足分を補います。



《当院採用インスリン一覧》

分類	製 剤 名		作用動態モデル		現作用時間	最大作用時間	持続作用時間	性状											
			(hr)																
			0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28		
超速攻型	ノボラピッド注																		
	ヒューマログ注 ミリオペン																		
速攻型	R注																		
持効型	レベミル注																		
	ランタス注																		
中間型	N注																		
	混合製剤	ノボラピッド30ミックス注																	
		30R注																	
		50R注																	

・中間型、混合型のインスリン製剤は使用前に必ず混ぜてください。

・インスリンは種類によって効き目の時間が違います。自分の使っているインスリンの特徴を知っておくことが大切です。自分の使っているインスリンの名前、単位数は覚えておくようにしましょう。

・使用済みの針は処置室で回収していますので、ペットボトル等に入れて持って来て下さい。容器ごと回収します。

3. 薬物療法の注意点

- ・飲み薬、インスリン注射ともに血糖コントロールの安定を助けるものであり、糖尿病を治すものではありません。薬が開始されても食事療法、運動療法は続けてください。
- ・薬は主治医の指示通り、正しく服用、使用してください。



4. 低血糖について

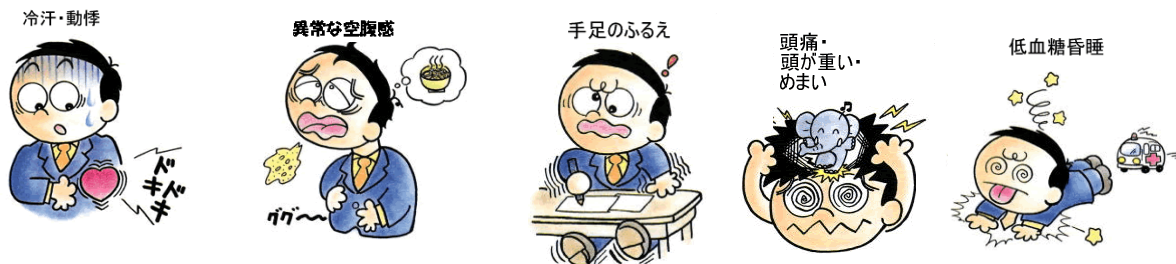
1) 低血糖とは

血糖値が下がりすぎた状態です。

血糖値・・・70mg/dL以下ぐらいで低血糖症状が現れはじめます。
50mg/dL以下では生命の危険な状態になります。

2) 低血糖になると

- ・冷や汗、動悸、脱力感、空腹感、はきけ、手足の振るえ、めまい、頭痛などが現れます。
- ・低血糖がひどくなると、意識障害、昏睡など生命の危険な状態になってしまいます。



3) 低血糖を起こしやすいとき

低血糖は、食事・運動・薬のバランスが崩れたときに起こります。

- ・食事を抜いたとき、食事の時間が遅れたとき、量が少なかったとき
 - ・いつもより体を動かしたとき、空腹時に運動したとき
 - ・飲み薬やインスリンの単位数を増やしたとき
 - ・疲労がたまっているとき、眠れなかったとき
- などです。



4) 低血糖が起こったら・・・対処方法



糖分をとって、**安静**にしてください。

例えば 砂糖(10g)

ブドウ糖(1袋) 缶ジュース(1本)など・・・

* 飴玉や氷砂糖は溶けるまで

時間がかかるので、お勧めできません。

* α -グルコシダーゼ阻害剤(グルコバイ・ベイスン・セイブル)を服用している方は、ブドウ糖をとって下さい。

・たいてい、10～20分で回復しますが、低血糖がひどくなり、体に力が入らない、視界が暗いなどの症状が出ると、自分では対処できなくなります。このような場合に備えて、家族・友人・職場の同僚などに低血糖時の対処方法(砂糖水を飲ませるなど)を伝えておいてください。砂糖水を飲み込むことができないような状態のときはすぐに救急車を呼んでください。

・低血糖を体験したら次回の診察で必ず主治医に報告しましょう。

5. その他の注意点

・合併症のチェック、薬の副作用を防ぐためにも定期的に診察を受けましょう。

・風邪を引いたとき、お腹をこわしたときなどは、薬やインスリンの効き方も変わります。早めに受診しましょう。

・糖尿病連携手帳、低血糖に備えての砂糖・ブドウ糖はいつも持ち歩きましょう。



糖尿病連携手帳
糖尿病であることの証明となります。主治医以外の医師を受診するときなどに役立ちます。



自己管理ノート
自己血糖の測定値を記録することができます。診察時に主治医へ提示して下さい。



塩山市民病院薬局

何か気になることがありましたら、気軽にご相談下さい。

